

市民とともに「わたしたちの図書館」を目指して

長野県 市立小諸図書館

基本データ

所在地	長野県小諸市相生町 3-3-3
職員数	12人
うち司書数	4人
蔵書数	171,266冊
利用登録者数	22,212人
年間貸出冊数	248,069冊
(児童用図書貸出数)	90,570冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】地域の課題解決、まちづくり

【活動のねらい】

- 市民が、ただ利用するだけの図書館から、「自分たちの図書館」であることを自覚し、主体的に関わり、考え、守り、発展させていく「公共の場」として認知されること。自治意識を育成し、実践していく場となること。
- また、運営一部業務受託者であるNPO法人本途人舎は、一事業者としての自覚をするとともに、市民と共に継続して「公共」を維持していく仕組みを築くこと。

取組・活動の概要

- 平成20年に市立図書館の建て替えの計画（駅舎併設の複合施設として）が市から示されたのを機に、市民の側から「図書館を考える会」が発足され、その声にこたえる形で新図書館準備室が設置された。
- その時から、市民、設計者、市と一緒に参加する45回の様々なワークショップを開催してきた。紆余曲折を経て、平成27年11月に現在の新図書館開館に至る。
- 開館以降、順調に利用者数も伸ばし、市の掲げるコンパクトシティ構想の拠点施設として認知もされてきたが、運営の面で職員15名中13名が臨時職員という問題を抱え、雇用改革が迫られた。
- 平成30年に館長から図書館協議会へ「今後の運営について」諮問され、数回の検討の結果「指定管理ではなく市が管理する形の業務委託」との回答をいただいた。
- それと同時進行で県立図書館の「信州発・これからの図書館フォーラム」の中で、市立小諸図書館との共催で「わたしたちの図書館」をめざして」を3回シリーズで開催、市民だけでなく県内外からの参加者とともに「公立図書館の運営のかたち」を模索してきた。



信州発・これからの図書館フォーラム

- それらの動きを受け、「市民とともに歩む図書館」を実践し継承していくことを目的として、新図書館建設に関わってきた臨時職員らでNPO法人本途人舎（ほんひとしや）を設立・プロポーザルを経て、平成31年4月より市立小諸図書館の運営一部業務を受託している。
- もともと市の委託もコストダウンありきではなく、利用者から評価をいただいている現図書館の運営の継続、人材の育成、業務の継承、雇用の改善が目的であった。それまで培ってきた知識や人脈も含め、いままでのつながりを大切にしながら、新しいつながりを広げていき市民と共に「わたしたちの図書館」の実現を目指している。



市立小諸図書館 外観



市立小諸図書館 館内

取組・活動の工夫や特徴

- 令和元年度友の会（仮称）を発足させ、市民が自分たちで図書館の事を勉強し、考え、支えられる自立した団体になるよう、機会を増やし市民の育成を図る。
- 本途人舎は、各自のスキルアップを兼ねて、市と積極的に関わり、市主催の講習会・懇談会・審議会等に積極的に参加し、市政に関心を持って取り組みに活かすことを推奨している。「図書館」に縛られることなく広い視野を持って、積極的に外へ出て連携を図り、図書館運営に活かしている。

取組・活動の成果や今後の展望

- 友の会はまだ始まったばかりで、これからゆっくりとお互いの信頼関係を築きながら進めていく予定である。少しずつ出来る所から自律的な活動が始まっている。
- 市や市内施設等とは連携も深まり、図書館へ声がけを頂き実際の展示企画等の依頼が増えている。また、図書館の隣の医療センターとの連携も進み、市の担当課、医療センター、図書館で毎月1回連携会議を持ち、病院への出張貸出

や医師によるミニ講演会等の事業に繋がっている。

- 企画展示等を通して関わった関係機関に図書館の役割を理解し、効果を実感して頂くことで、これから先の運営に繋がっていく事を期待する。
- 組織を持続させていくために、若い職員に意欲を持って仕事をしてもらうことと、さまざまな取り組みを通して市民と関わる中で、次代の人材を発掘し繋いでいく仕組みにしたい。
- 友の会を育成し、市と事業者と友の会で「私たちの公共図書館」を「公共」として維持し、お互いに対等な立場で緊張感のある関係を保ち、市立小諸図書館を市の拠点施設として根付かせていきたい。